

相良病院

SAGARA HOSPITAL

No. 12-068-2021作成

新築
病院

発注者	社会医療法人 博愛会 相良病院	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

共に在り、共に歩む建築

相良病院は、先進女性医療の専門病院である。「共に在り、共に歩む」という基本理念に基づき、乳がん治療の他、女性のための医療に幅広く取り組み、トータルケアを推し進めている。また、世界にその医療技術を発信しており、今後は病院の海外進出も予定されている。敷地は神社に隣接しており、国内初である医療施設と神社の一体開発を行った。地域の人々が親しみを感じ、活気を生み出す街区となること、患者が暖かみや癒しを感じる建築、そして、先進女性医療を世界に発信するにふさわしい、機能とデザインを実現することを目指した。病院と神社の垣根を無くし、病院のエントランスホールは神社へ通り抜けできるようにすることにより、以前は断たれていた大通りから神社への動線を、病院内に参道として整備した。また、繁華街へ続く通りに沿って、カフェやショップなど市民も利用できる施設を配置し、賑わいを創出している。相良病院は由緒ある神社の場所性再生、街区の活性化に寄与したのである。病院内には、居心地の用場を十分に用意した。松の美しい前庭や、空中庭園「望テラス」、最上階には、がん患者支援施設「カドルハウス」や「宙(そら)の庭」など、病を治すだけでなく、人々が集い、活動し、希望を享受する場所である。病院の概念を超え、鹿児島島の風土と景観を活かし、「SAGARA ORIGINAL」を充分に取入れたこの建築が、街並みに新しい息吹を吹き込み、人々に希望と安らぎを与えることを願っている。



共に在り、共に歩む姿を2つの円弧が重なるデザインにより表現した外観

ランドマークとなる、しなやかな外観フォルム

外観は、高層部の円弧が街に開き、低層部の円弧は人々を優しく受け入れ、包み込む様を表現した。直線的で単一化しやすい街並みに、この2つの円弧の重なりがしなやかなフォルムを形成し、ランドマークとしての存在感を表出している。

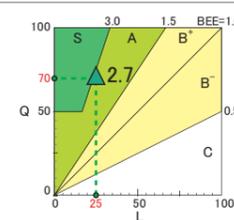


2つの円弧の重なりがランドマークとして存在感を表出



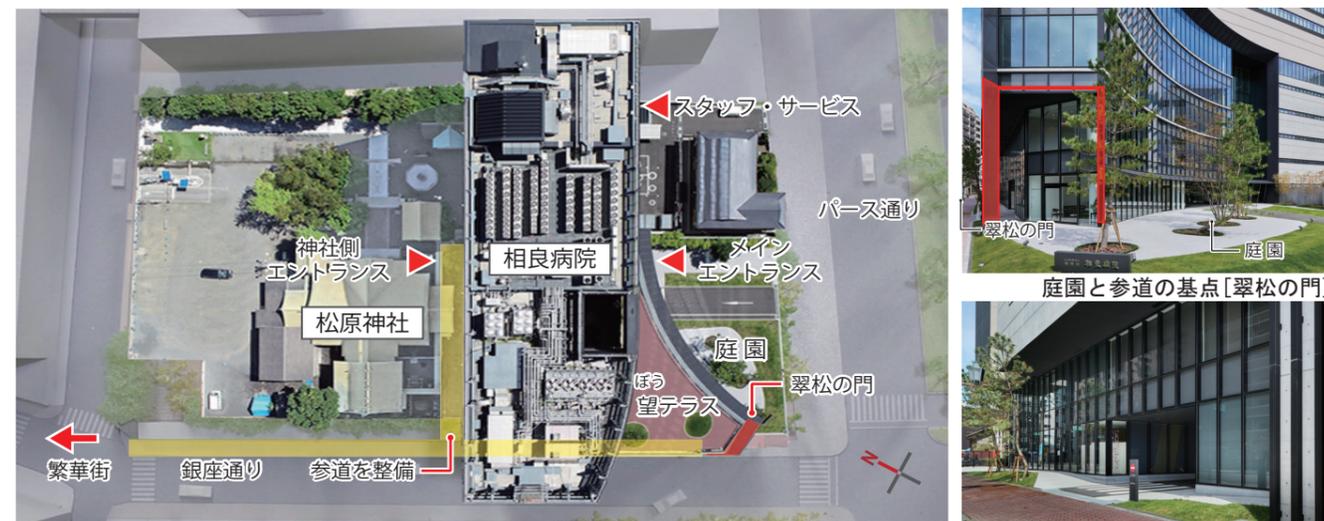
低層部の円弧が人々を迎い入れる

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	鹿児島県鹿児島市	Aランク
竣工年	2020年	BEE=2.7
敷地面積	2,903.39 m ²	2014年度版 第三者認証
延床面積	13,781.68 m ²	
構造	RC造	
階数	地下1階、地上12階	



国内初の医療施設と神社の一体開発

一体開発することにより、病院と神社相互の人を流れをつくり、更には、繁華街や大通りからの活気を街区につなげる計画とた。大通りの交差点側には、松の美しい庭園を配置し、街区に癒しの空間を整備した。庭園に面して、参道の基点となる「翠松の門」を設けるなど、建築と外部空間が一体となり、街区の活性化に寄与している。



相良病院と松原神社の配置



庭園と参道の基点[翠松の門]

神社に続く参道



神社へ続く参道 | サポートセンター | カフェ | 翠松の門 | 庭園 | 銀座通りの賑わいを創出

人の心と身体を包み込む優しい光
医療機能としての灯りだけでなく、光によって心と身体を癒す「光治」という考えに基づき、照明計画をおこなった。やわらかな光のグラデーション、心地よい温かい光色、グレアの無い光を使って心を包み、円弧を描くなめらかな間接照明、拡散光、光の溜まる温かい場所をつくることで、身体を包み込むようにした。またこの光は、夜になると行灯のような優しい光を放ち、街区に癒しの風景をつくっている。



街区に癒しの風景をつくる光



やわらかな光のグラデーション

周囲の景観を最大限に活かす
建築計画は、神社や桜島の景観を随所に活かしている。エントランスホールは、神社と庭園に囲まれ緑を体感する空間である。空中庭園[望テラス]や待合、病室などいたるところから桜島が望むことができ、人々に癒しを与えている。



エントランスホールから神社を望む



空中庭園[望テラス]と桜島

設計担当者

建築：井内雅子、長谷川晃三郎、松村秀幹、石川真吾(前期)／構造：池間典一、鈴木太一郎、篠崎主弥／設備：龍英夫、福田大空(前期)、矢後佐和子(後期)／電気：松村保彦／インテリア：栗野寛史／照明計画：ライトデザイン

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 信用性・信頼性 (浸水被害を防ぐ機器配置、インフラ停止時も医療機能を72時間以上継続)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (伝統色と郷土色を取り入れた調和する外観、沿道の緑化、神社との一体開発)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (空中庭園、宙の庭の設置)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷制御 (Low-E複層ガラス)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (LED照明の採用)
- LR2. 1. 水質源保護 (節水型器具の採用)